

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

平成24年 龍源寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4～1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/11大般若・大施食会法要
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/17～3/23 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 7/13～7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7月下旬 第31回子供禪の集い
- 8月上旬 夏季おてんま
- ※8/10 中元寺例
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/19～9/25 秋季彼岸会
- ※10/17～10/21 群曹青50周年記念大授戒会
- ※10月下旬 檀信徒参拝研修旅行
- 12月上旬 冬季おてんま
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講・琴教室・華道教室
- ※は、御本寺仁叟寺にて開催

十三重石寶塔建立工事中 ～奉納写経を募集します～



当寺本堂前に、十五尺（約4.56m）の十三重石寶塔を建立すべく、現在工事中でございます。檀信徒の白田實様（松田）の寄進発願により、同工事が4月より進められております。白田實様は、今年米寿を迎えられました。その感謝報恩の念を菩提寺に、また白田

↑ 建立予定地（本堂前） 家先祖代々供養の為に賜り、今回の御寄進と相成りました。施工は、石匠多比良様（多比良・篠崎正道社長）に依頼。十三重石寶塔の建立は勿論、当山の石碑等の移動や補修工事も匠の技をもって精力的に行っております。

本年6月迄には、本堂前に十三重石寶塔が建立される事になります。その貴い浄行に併せまして、十三重石寶塔基壇下に奉納いたします写経を募集いたします。檀信徒の皆様方には、その主旨を説明いたしました文書と写経の見本及び用紙等を送付いたしました。檀信徒以外の方でも結構です。枚数も問いません。5月末

日迄の締め切りで、当山宛にご持参若しくは郵送をお願い申し上げます。



← 石碑に白文字を入れ一新



← 石碑の補修工事

自らを洲とする～東日本大震災被災地支援報告



↑ 上毛新聞記事 (4/10)

故者を供養するため、境内五輪桜下に「桜花観音像」が祀られ、開眼供養法要が営まれました。以下、上毛新聞記事を掲載いたします。

『桜の下で鎮魂祈る ～高崎・仁叟寺 観音像設置～』

東日本大震災の犠牲者を供養するため、高崎市吉井町の仁叟寺（渡辺啓司住職）の境内に「桜花観音像」が設置され、8日に開眼供養法要が営まれた。同寺は室町時代に吉井町奥平公田に創建され、1522（大永2）年に現在の場所に移ったと伝えられている。観音像は高さ60cmの青銅製。うっすらと笑みをたたえ、本堂裏の幹が5つに分かれた「五輪桜」（コヒガンザクラ）の脇に設置されている。地元の名所となっている五輪桜は例年、3月中旬ごろ見頃を迎える。この時期に参詣する人も多いことから、「震災で散っていった尊い命を忘れないでほしい」（渡辺住職）と設置した。今年は3月中の冷え込みにより五輪桜はやっと満開に近い状態。ピンク色の花が咲き誇る中で行われた法要で渡辺住職は観音像の前で経を上げた後、集まった檀家らに観音像の名前の由来などを説明した。法要はサクラの開花の状態に加え、釈迦誕生会の「花祭り」に合わせて行われた。』（上毛新聞4月10日付）

早いもので昨年に発生した東日本大震災より一年以上が経過しました。これまでの当寺報にて、被災地支援活動のご報告は随時させていただきました。住職を中心に、県内外若手僧侶と共に、数度に亘る支援活動に於かれましては、檀信徒の皆様方による尊いご協力をいただきましたこと、有難く感謝しております。また、震災直後より物故者諸精霊位牌を安置し、ご冥福を祈念しておりますが、当初は白木のお位牌も黒檀製に変わりました。

さて、去る2月28日～29日にかけて、曹洞宗宗務庁にて開催されました青少年教化委員連絡協議会の席上、住職により支援活動報告がなされました。報告内容につきましては、当山HP上に掲載しておりますので、関心のある方は是非ご覧いただければと思います。

また、御本寺・仁叟寺に於きましては、4月8日の花まつりに日に合わせ、東日本大震災の物

側溝にステンレス製グレーチングを敷設しました



↑ 檀信徒会館と駐車場の側溝に敷設しました

本年3月に、当山の駐車場及び檀信徒会館の側溝にグレーチングを敷設いたしました。以前より敷設を希望する声が当山護持会に寄せられており、今回は当寺及び小林茂総代長（矢田）・白田博総代人（松田）両名のご寄進を賜り、敷設させていただきました。ご協力、ありがとうございました。合掌。

仁叟寺通信-34- 御本尊様釈迦三尊像修復



仁叟寺本尊様及び脇侍仏であります迦葉・阿難両尊像（いずれも高崎市指定重要文化財）が、修復の為に本間紀男・前東京藝術大学大学院教授が所長を務めます山梨県富士山麓にございます佛教造形研究所工房に旅立たれましてから、既に2年以上の星霜が経過致しました。幸いにして、作業は震災の影響も受ける事なく、順調に進んでおり、ほぼ完成に近づいて参りました。

当山にお帰りになりましたら、改めまして開眼法要を勤めさせていただこうと思います。時期は、進捗状況や準備等ありますので、現段階では、今秋を目処に修行の予定です。その際には、事前にご通知申し上げますので、是非ご来山され、ご臨席賜りたく存じます。

↑ ほぼ完成となった本尊

また、今秋10月17日（水）～21日（日）に掛けまして、群馬県曹洞宗青年会50周年を記念し、同会主催の大授戒会が仁叟寺を会場に修行される事になりました。戒師として、曹洞宗大本山總持寺様より江川辰三大禅師猊下が見えられます。大きな慶事行事が続きます。檀信徒及び関係者各位に於かれましては、是非ともこの難値難遇の好縁を結んで頂きたく思っております。なお、詳細は後日、連絡いたします。

龍源寺太陽光発電、稼働中

自然環境豊かなここ上州吉井の龍源寺では、禅と自然に親しみ、その恵みに日々感謝しております。その豊かな大自然から得られる再生可能エネルギー（自然エネルギー）を活かそうと、平成24年3月1日、太陽光発電「龍源寺発電所」が稼働いたしました。



↑ 龍源寺太陽光発電（檀信徒会館）

さらに、昨年が発生しました東日本大震災では、多くの被害をもたらしました。特に福島県に於きましては、原子力発電所の事故等により、今なお先行きが不透明な状況でございます。我々が今まで当たり前として享受して来ました電力（原子力）は、元来自然界にないエネルギーを発生させ、更には永きに亘って影響を与える放射性廃棄物を発生させます。しかしながら、今現在、全ての原子力発電所を停止させ閉鎖させることは困難であり、非現実的です。時間は掛かりますが、ゆっくりと脱原発への移行、そして我々の省エネ等の地道な取り組みが必要ではないかと思っております。

また、地球温暖化防止の具体的な取り組みとして、再生可能エネルギーが挙げられます。太陽光発電によりエネルギーを発生させ、購入電力の一部を代替してCO2を削減することも目的の一つです。一般社団法人の太陽光発電協会・太陽光発電普及拡大センターからの助成を受け、地元檀家でございます吉井住設株式会社様（城代裕一社長）の協力を得て、同設備を導入しました。

檀信徒はじめ地域の皆様方に再生可能エネルギーについての理解を深めていただき、普及啓発につながれば有難く存じます。

平成23年度御寄附者一覧（敬称略）

寄進品目名	爲	地域	施主名
榿の木石標及卒塔婆立	酒井家先祖代々菩提供養	吉井川	多胡石材(株)
本堂入口LED燈籠	大本山總持寺参拝研修旅行	松田	出牛裕一
関牧翁禅師扁額	大本山總持寺参拝研修旅行	藤岡	新井表具店
榿製本堂用椅子20基	龍昌院十三回忌菩提供養	松田	出牛裕一
寺紋入榿製八寸	佐藤家墓石塔開眼供養	長根	佐藤孝子
榿製位牌立及写真立	白田家墓石塔開眼供養	松田	白田隆一
駐車場側溝ステン板一式	小林家先祖代々菩提供養	矢田	小林茂
駐車場側溝ステン板一式	白田家先祖代々菩提供養	松田	白田博
龍図切り絵及火鉢	亡父十三回忌菩提供養	矢田	飯塚子工子
十三重石寶塔	白田家先祖代々菩提供養	松田	白田實

御寄進、どうもありがとうございました 合

平成24年度龍源寺総代人世話人一覧（敬称略）

総代長	矢田	小林 茂	役員	多胡	齋藤良一
総代人	松田	出牛裕一	全	多胡	宇佐美政良
全	松田	白田 博	全	矢田	金井正明
顧問	多胡	宇佐美源吾	全	矢田	※八木紳雄
役員	松田	白田智志	全	多比良	田端米治
全	松田	白田隆一			

上記の表が、平成24年度龍源寺総代世話人の方々です。宜しくお願い申し上げます。また、※印の1人が新任となります。前任者でございます、八木和宏様（矢田）、お疲れ様でした。

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

本年の冬は、寒さが厳しく感じられました。当山の桜も、開花が遅れ、ヒガンザクラとソメイヨシノが同時に咲く珍事に。綺麗な桜の協演となりました。また、筍の生育もかなり遅れております。4月29日の恒例の『タケノコ会』（大施食会）までにとっておりますが、こればかりは何とも。その貴重な筍を、今年も泥棒に盗られてしまいました。桜の協演は美しいですが、筍泥棒は美しくもなく……。盗んで食べる寺の筍、決して美味しいとは思いません。せめて29日までは、と住職として思いますが、本当に残念でございます。（龍）